



ぶらつ☆篠崎

江戸川区立篠崎図書館 〒133-0061 江戸川区篠崎町7-20-19 篠崎文化プラザ内 (03-3670-9102)

あのとき外は寒かった

館長の紙BLOG 2009/01/01

2009年は世相はともかく、気候はおだやかに明けました。おだやか過ぎて、真冬のぴりつと引き締まるような寒さは東京ではもう帰つてきません。

酷寒の本場といえば北極圏と南極圏が双璧ですが、その雪と氷がこのところめつきり痩せてしまい、永久凍土もどんどん溶けているのは報道されているとおりです。氷が溶けたあとはまた別の「荒涼」が広がるのでしょうか。

ところで今から約四千五百万年前、すなわち絶滅した恐竜のお株を奪った哺乳類が大進化をはじめた頃、世界は温室効果によって今より数段高温で、北極圏さえ堂々たる森林で覆われて絶滅したことが、見渡す限りのごつい切り株の化石に匹敵するほど旺盛に育ちに育つて、その緑陰には北極にあるまじきことに、もわくっと蒸し蒸ししていったようです。

そして現代では一大気中の二酸化炭素が急増しており、温室効果によってわたしたちが体感しているとおり、気温が上昇しています。国際的な協議組織のシナリオでは、規制に効果的な手を打てないままならば二酸化炭素濃度は19世紀と比べて2030年には2倍、今世紀の終わりには4～5倍に達するそうです。ちなみに北極の大森林時代の大気中の二酸化炭素の農度は現在の3～5倍と推定されています。自然が数千万年をかけたなどらかな気候変化は、生きとし生けるものたちに「こころの準備」と環境になじむよう適応していく時間の余裕を与えたが、わずか数百年で自然を巻き戻す強烈な制動に、何もかもが（もちろん人間も）今度ばかりはあつぶあつぶするのではないか。でも暖房をすこしばかり落として、ちょいと環境に関する本を開き、過去の数万年にに対する最近の数十年が地球にとって何だったのか考えてみましょうか。

イベント情報 1・2月

図書館主催講演会

「本の出会いと 人の出会い で、人は成長できる」

講師：清水克衛（しみず かつよし）氏
(NPO法人「読書普及会」理事長
書店「読書のすすめ」代表取締役)

日時：1月25日（日）14時～16時（開場：13時30分）

場所：篠崎文化プラザ 講義室

定員：100名（当日受付、先着順、入場無料）

どなたでも参加できます。

お問合せ：篠崎図書館 03-3670-9102

～大人のための映画会～

ライブラシネマ篠崎 第3回上映作品「第三の男」

日時：2月7日（土）14時～16時

・場所：篠崎文化プラザ 講義室

・定員：50名（先着順）

どなたでも参加できます

・入場料：無料

・お問合せ：篠崎図書館

（03-3670-9102）まで

◇お知らせ◇

メディアワークルームで新しい無線LANサービスがはじめました。

従来のフレッツスポットに加え、フリースポットを導入しました。無線LAN内蔵PCでインターネットにアクセスできます。ぜひご利用ください。

☆特集展示☆

- | | |
|-------------|----------|
| 「天地人」 | 1月4日～31日 |
| 「源氏物語とその時代」 | 2月1日～28日 |

より詳しい

篠崎図書館館内の ご案内 PART1

図書館の本は基本的には背ラベルにある分類番号順で並んでいますが特徴のある本を集めてコーナーにしたところもあります。そんな知っていると便利な篠崎図書館のご案内です。

①大型本コーナー

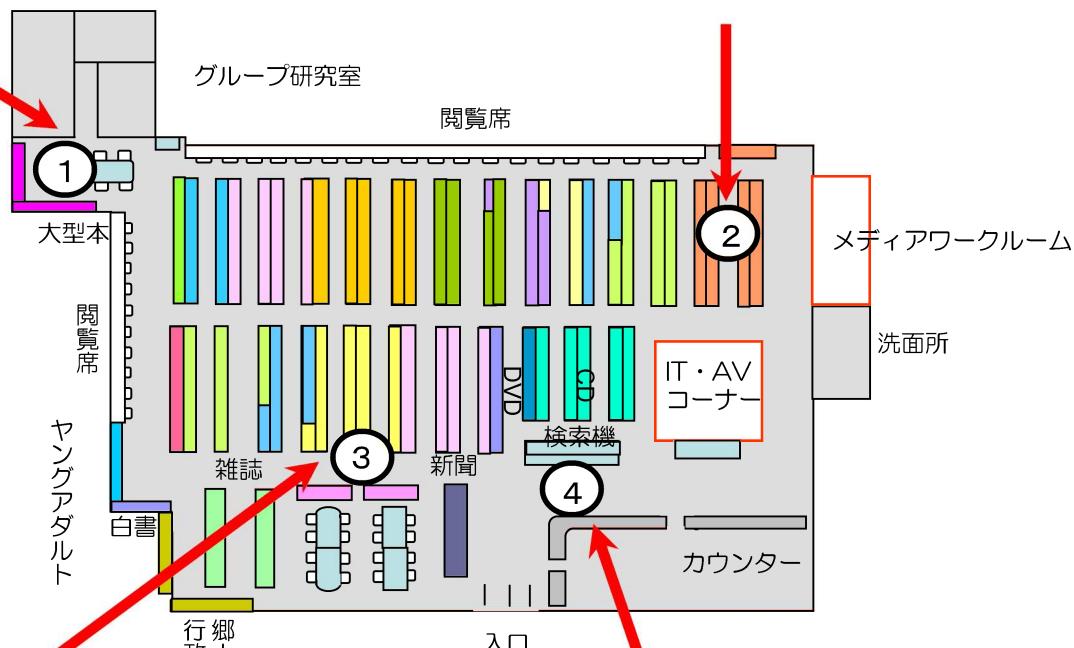
入口から左手一番奥にあります。旧篠崎図書館の2階にあつた大きな本、特に美術書や写真集は貸出も可能になりました。また、ここにある机とイスは座席指定しておりませんので、ご自由にお使い頂けます。ゼンリンの住宅地図や近隣自治体の電話帳もこちらです。(全国の電話帳は中央図書館にあります)



②参考調査コーナー

入口から右手の奥、赤い背ラベルが付いた本が並んでいます。調べもの専門の辞書や事典、年鑑などをを集めているため、館内閲覧のみとしています。

一般書の棚を見て、より詳しい調べ物をしたい、という時はぜひこちらの棚もごらんになってみて下さい。また、白書は郷土・行政資料コーナーにまとめてあります。



③新刊コーナー

入口を入って左手の通路の側面です。毎週土曜～日曜にかけ納品された新着本を受入し、背表紙のコピーをとって、ここの棚に出します。先に予約が入っている本もありますので、この棚にない新着本はどんどん予約して下さい！区内にない本(端末で検索しても出てこない本)はカウンターへどうぞ。



④自動貸出機

入口正面にあります。本、雑誌であればカウンターを通さずに貸出ができます。カウンターが混雑している時、ぜひご活用下さい。(CD・DVDはロックケースを外す必要がありますので、お手数ですがカウンターまでお願いします。)



篠崎ウォッキング！

中学生、図書館で奮闘！

昨年11月と12月に江戸川区立瑞江二中と篠崎二中の2年生がチャレンジ・ザ・ドリームで篠崎図書館にて職場体験してくれました。

チャレンジ・ザ・ドリームとは職場体験を通して、多くの方々と触れ合い、コミュニケーション能力や社会性及び思いやりの心等の道徳性を身に付け、さまざまな生き方に触れることにより、自分の将来を考える機会とする中学校行事です。

篠崎ウォッキングとは篠崎図書館のニュースやイベントなどを伝えるコーナーです。

各校4名ずつ、計8人に5日間本の棚への返却や本の修理などいろいろな仕事を体験してもらいました。初めてのことながら積極的に一生懸命働いていただきました。最終日にはパソコンを使って本の紹介用のPOPを作ってもらいました。その作品はヤングアダルトコーナーに掲示しています。皆様、彼らの力作をご鑑賞下さい。



人物ブックマーク

第1葉 直江兼続

言わずと知れた今年の大河ドラマの主人公である。越後魚沼で上杉家臣樋口兼豊の長男として生まれる。容貌は「長高く姿容美しく、言語晴朗なり」というから、今で言うイケメンだったようだ。兜の前立てに愛の字をつけた事でも有名である。

上杉謙信の養子の景勝に仕え、謙信死後に起きた跡目争いの御館の乱では景勝を助け勝利に導き、兼続は直江家を継ぐ。その後も上杉家執政として景勝を支え、豊臣家への臣従や会津転封などの危機を乗り越えた。

(直江兼続関連本)

「天地人」 大河ドラマ原作本。利益を優先する戦国時代に上杉謙信、直江兼続、真田幸村ら、利を捨て義をつらぬいた男たち。戦国末の動乱期を駆け抜けた上杉家の執政・直江兼続の生涯を通して義とは何かを問う作品である。

「直江兼続のすべて」 一級の研究家達が歴史資料に基づいて直江兼続について執筆した研究本。直江兼続の人生や人間関係逸話、遺品など網羅的に収録している。本当の直江兼続を知りたい方に。

「天地人を歩く」 天地人の原作者火坂雅史が物語の舞台を旅する紀行文的伝記。直江兼続ゆかりの地を豊富な写真とともに紹介している。直江兼続ファン必読の一冊である。

人物ブックマークとは歴史上の人物を紹介し、一緒に関連本を紹介するコーナーです。

秀吉死後、台頭した徳川家康の景勝への上洛命令に対し、兼続は“直江状”といわれる挑戦状を出し宣戦布告をした。これが引き金となり関ヶ原の戦いが起きたので、兼続が関ヶ原の戦いを起こしたと言っても過言ではない。戦の結果、西軍が敗北。西軍に加担した上杉家は領地を大幅に削られてしまう。しかし兼続は家臣を強制的にリストラせず、身を削って上杉家再建に努めた。そして、江戸藩邸にて60年の生涯を閉じる。



直江兼続像

(米沢市上杉博物館所蔵)

スタッフのセレクション！ その第4回

このコーナーでは、篠崎図書館で働くスタッフが、ほとんど個人的趣味で選んだオススメ本やCDを毎号紹介してまいります。今号は、新人のGさんが選んだ、ファンタジーです。

「魔使いの弟子」

ジョゼフ・ディレイニー著
金原瑞人・田中亜希子訳 東京創元社

「魔使いの弟子」というタイトルを見たとき、私は最初「魔法使いの弟子」と読んでしまいました。じゃあ“魔使い”とは何でしょう？

物語は、トムという13才の少年が魔使いに弟子入りするところから始まります。トムは、七人兄弟の末っ子であるお父さんの七番目の息子です。「七番目の息子の七番目の息子は特別な力を持っている」と言われています。トムは魔使いに連れられて幽霊屋敷で一晩過ごすという最初の試験を受けます。何とかクリアしたものの、トムの心は恐怖でいっぱい！もともと怖がりなうえ、魔使いが相手をするのは幽霊や魔女ですから。

魔使いというのは魔法を使いません。必要なのは常識と勇気、正確な記録です。使うのは鉄と塩。これで魔女に対抗するというのだから驚きです。特別な道具も使わずにどうやって魔女に立ち向かうのかは見所のひとつです。

この物語で印象的なのがトムのお父さんの言葉です。トムは魔使いに、お前は弟子としてふさわしいかと問われます。彼は父の言葉を思い出し、答えます。「誰かがやらなくてはならないことなら、自分がやってもいいはずだ」と。

「魔使いの弟子」は魔法を使わないファンタジーの中でも類を見ない、魅力的な1冊となっています。

※続編があります。

「魔使いの呪い」(2作目)

「魔使いの秘密」(3作目)



DVDへの誘い いざな Vol.1

「NHKスペシャル未知への大紀行」全9集

150億年前に、水素とヘリウム程度しか存在しなかった宇宙にいかにして資源豊富な惑星「地球」が生まれたのか。また、度重なる偶然によって生まれた生命「人類」は自らの浪費によって早々にその地を追われる今、いったい何処へ安住の地を求めるのか。

地球の生い立ちに始まり、地球外生命体の可能性、さらにテラ・フォーミング(惑星改造)による「人類移住計画」等、深淵な宇宙と生命の関係に焦点を当てた作品です。



江戸川まいにんぐ 発掘 第4回 繭玉団子（まゆだまだご）

繭玉団子は小正月（1月14日から16日のあいだ）の素朴であたたか味のある行事です。

新粉（ウルチ米の粉）を蒸して臼で搗き、それを繭玉のように丸めて団子をつくり、一部は赤や緑にカラフルに染めて柳の枝に鈴なりにつけます。それを神棚や仏壇をはじめ、家中の部屋や畑に刺して新しい年の無病息災をお願いします。

繭玉団子の行事は広く全国的におこなわれ、もともとは養蚕地帯ではじまった繭の豊産を祈る行事だったようです。区内では養蚕は江戸時代から行われていましたが、それほど盛んではなく、繭玉団子はむしろ田や畑の五穀豊穣の願いと結びつき、無病息災までカバーするようになりました。

団子は16日の夜に家族で食べました。東宇喜田村の雷組では子どもが村中を回って団子をもらって歩く風習があったそうで、このように、食べれば食べるほど病気知らずになる縁起のいい団子を「立ち寄り・もらい下げ」する風習も全国の各所に伝わっています。

画像は葛西の森家の小正月のようすで、1974（昭和49）年の撮影です。できあがった繭玉団子を手にしていらっしゃるのは本家十三代目の当主である甚悦氏と奥様。森家の建物は安政以前の建築と伝えられ、150年以上も往時の家屋構造を伝えています。

区内では神棚のある家も田畠も減った今、繭玉団子の行事は地域でどのように生き残っているのでしょうか。

